

【教育目標 夢中になる とともに創る】



# きらきら

新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和6年5月16日発行

## 子どもたちが育てているもの

園長 青木博子

4月のある日、年長組に行くと、「後ろを見てごらん」と子どもたちが言います。見ると、布をかけて覆ったテントがありました。そっと中をのぞくとプランターがあり、もやしのような芽が出ていました。種の帽子をかぶったままの芽もありました。

話をする子どもたちの目がキラキラしています。「これはね、『ひっちゃん(名前)』だよ。ホワイトアスパラみたいに、ホワイト枝豆にするの」「だから、暗くして、カーテンしてるんだよ」と解説してくれました。今号は、そのホワイト枝豆をめぐるストーリーです。



### 第1章 種との出会い

子どもは年中児の時から、給食のいよかんの種をまいたり、節分の豆をまいたら芽が出るのかと話していました。市之瀬幼稚園のお友達からもらった、朝顔などの種もたくさんありました。子どもたちは種に興味を持ち、種をまくことにしました。

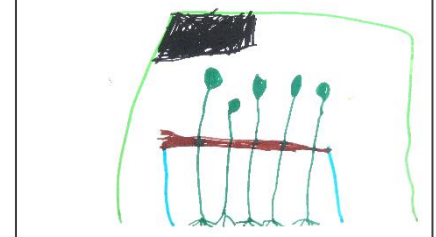
枝豆の種は3種類です。子どもはすぐに種に名前を付けました。若干緑色の種を「みっちゃん」、傷のような筋がある種を「きっちゃん」、節分の時に撒いた「せっちゃん」です。お世話をする種は自分で決めました。そして、名前を書いたプラスチック版をプランターに刺しました。ほかにも、あさがお、ふうせんかずら、ひまわり、じゅずだまの種をまいて育てることにしました。

### 第2章 ホワイト枝豆?

ある子どもが「日陰でも枝豆を育ててみたい。だって、ホワイトアスパラは日陰でできるから、ホワイト枝豆ができるでしょ」と言いました。そこでホワイトアスパラガスを知っているかを尋ねると、半数以上の子どもは知りませんでした。そこで、iPadで画像を見せると「やりたい。みんなで育てたい」ということになりました。担任が「日陰って何?」と尋ねると「暗い」「太陽が当たらないところ」「電気を消す」「カーテンを閉める」と口々に言いました。そして、つきルーム(保育室)の隅にプランターを置き、布を下げるなどして、テントのように暗くしたのです。



今日のひっちゃん



ベランダで育てている種がなかなか芽を出さない中で、日陰で育てる「ひっちゃん」が先に芽を出しました。「これは、もやしだ」「根っこだ」「日向のほうが、芽が出ないよ」などその様子に驚き、不思議さ、面白さを感じていました。次の日、ある子どもが、「もやしは枝豆の赤ちゃんなんだよ」とお母さんから聞いたことを伝えました。

### 第3章 ひっちゃんを救え

5月の今、ベランダで育てていた「きっちゃん」「みっちゃん」「せっちゃん」の生長が目覚ましくなり、「ひっちゃん」の元気がなくなってきました。ひっちゃんはひよろひよろと茎も細く葉っぱは小さく、やがて徐々にぐったりし始めます。ぐったりしたひっちゃんを心配した子どもたちは話し合います。



もうお日様に当てた方が良くという意見と、ホワイト枝豆ができるかもしれないからこのまま日陰で育てたいという意見が出ました。みんなで話し合った結果、3つの場所に分けて育てることにしました。1つはそのままお部屋の日陰で育てる。2つ目はお部屋に置いておくけれど、周りを囲っておく。3つ目はベランダでお日様にあてるのです。

### 第4章 ひっちゃんのお引っ越し

日陰の枝豆のひっちゃんを引っ越しさせることになり、プランターと土は準備しましたが、植え替えの仕方を子供たちはわかりません。まず、1人の子がそっとひっちゃんを抜きます。根が長く伸びていて、子どもたちは驚きの声を上げました。でも、つかんでいると折れてしまいました。次に考えたのが、土とスコップや手で引っ越すこと



です。土をつけたまま、スコップで芽をすくいました。手伝ってと言う声上がり、大切なひっちゃんを1本ずつ協力して植え替えていました。水もたっぷりかけていました。

みんなで力を合わせて引っ越しを始めてから1時間半が過ぎました。引っ越し後、名前をつけました。そのままのは、ひっちゃん。周りを囲うのは、ちょひっちゃん。ベランダのお日様にあてるのはひおっちゃん。そして毎日見守っていました。

けれども、ひっちゃん、ちょひっちゃんは、ますます元気がなくなっていきました。子どもたちは相談して、「お日様にあてる」ことに決めて、すべてベランダへ引っ越しました。

### 第5章 子どもたちに育ってきたもの

子どもの思いつきから始まった、ホワイト枝豆の栽培。子どもにとっては、不思議、発見の連続です。毎日毎日興味深く見て、世話をしています。枝豆の生長の過程に驚いたり、日向と日陰の生長の違いに気づいたりしています。さらに、元気に育ててほしいという願いを強くし、何とかしたいとあれこれ試行錯誤しています。見守り、生長のためにどうすればいいか考えて生育環境を整え、再びその結果を見守っています。

子どもたちに育てられたホワイト枝豆。そして、ホワイト枝豆に子どもたちが育てられています。